

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【さいたま市立大宮西中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	さいたま市学習状況調査において市平均に届かない現状を踏まえ、調査結果の分析を学校職員間で共有し、学校課題として基礎学力向上に取り組む必要がある。特に基礎問題に関して知識・技能が定着していない部分があるため、小学校とも連携し、学習習慣の定着と基礎学力向上キャンペーンを実施していく。小テストの実施に関しては今後検討していく。
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査において市平均+1ptを目標年、学力向上カウンセリング学校訪問の実施、それを踏まえた学習活動を展開する。「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を各教科で実施していく。各教科の授業内で、自分の考えを伝える機会を増やし、表やグラフを用いて説明する場面やわかりやすく相手に伝える場面を設定する。
主体的に学習に取り組む態度	「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の項目では、中学校2年生の肯定的な回答46%(市平均-4.1pt.)、中学校3年生の肯定的な回答59%(市平均-6.3pt.)となり、市平均よりやや低い結果となった。引き続き「ドリルパーク」「スタディサプリ」を活用すること、Teamsを用いた学習課題の配信の工夫、2年前から実施している家庭学習強化週間を継続して行っていく。家庭学習強化週間において、専用のシートを改良しながら生徒の個別の学習状況を保護者、教員ともに把握し支援していく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査においての自校結果より、国語、数学の「知識・技能」において1pt向上させる。	⇒ 「ドリルパーク」「スタディサプリ」を活用する。学期に1回、家庭学習強化週間を行い、基礎学力の定着を図るとともに、教科ごとの課題をクリアするための小テスト実施する。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査においての自校結果より、各教科の「思考・判断・表現」において1pt向上させる。	⇒ ICTを活用した「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を各教科で実施する。定期テスト前に学年職員による放課後質問会「藤っ子教室」を行い、各教科質問できるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	全国学力・学習状況調査における「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の項目において、肯定的な回答60%以上を目指す。さいたま市学習状況調査における「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の項目において、肯定的な回答85%以上を目指す。「ドリルパーク」「スタディサプリ」を活用し、個別最適化の学習に取り組ませるとともに、その取組状況を評価し、学習習慣につなげる。	⇒ 「ドリルパーク」「スタディサプリ」を活用し、個別最適化の学習に取り組ませる。学期に1回の家庭学習強化週間を行い、専用シートにより学習の状況を生徒、保護者が把握・管理できるようにする。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度市学習状況調査の、学校平均正答率/市平均正答率の値は、1学年国語で97%、数学94%で、2学年国語94%、数学86%であった。市平均正答率にはやや届いていない。	B
思考・判断・表現	R5年度市学習状況調査の、学校平均正答率/市平均正答率の値は、1学年国語96%で、数学95%、2学年国語101%で、数学93%であった。数学の市平均正答率にはやや届いていない。2年生国語に関しては平均正答率+1ptとなった。	A
主体的に学習に取り組む態度	「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の項目では、肯定的な回答48%(市平均-7.3pt)となった。「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の項目では、肯定的な回答87.1%(市平均-0.7pt)であった。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、全国の平均正答率と本校の比較は、国語-2、数学+2、英語+9であった。国語では「我が国の言語文化に関する事項」について、特に文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題がある。英語では、言語の働きを理解し、目的に合った表現を正確に書くことに課題がある。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、全国の平均正答率と本校の比較は、国語-1、数学+2、英語+6であった。国語では、目的に応じて質問する内容を検討すること、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。数学では目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取って、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に学習に取り組む態度については、「1・2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の項目において肯定的な回答は全国平均を上回り79%であった。「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の項目では、全国平均と比較し-6%となった。引き続き「ドリルパーク」や「スタディサプリ」を活用し、個別最適化の学習に取り組ませる。家庭学習強化週間も実施していく。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	市平均と比較して、「知識・技能」では国語-2.7pt、数学-3.9pt、「思考・判断・表現」では国語-2.8pt、数学-2.9ptであった。国語では、話すこと・聞くことに関しては市平均と同等であるが、書くことに関しては-4.7ptとやや低い傾向である。数学では、図形に関しては市平均よりやや高く、数と式に関しては市平均より-4.7pt低い結果となった。「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の項目では、肯定的な回答38.8%(市平均-17.5pt.)、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の項目では、肯定的な回答85.1%(市平均-1.1pt)であった。
中2	市平均と比較して「知識・技能」では国語-4pt、数学-8pt、「思考・判断・表現」では国語+1pt、-3.1ptであった。国語では、話すこと・聞くことに関しては市平均よりやや高く、我が国の言語文化に関する事項に関しては市平均よりやや低い傾向である。数学では、関数に関して市平均よりやや低く、基礎問題の正答率が市平均と比較し-6.2ptと低い傾向にある。「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の項目では、肯定的な回答89.2%(市平均+2.3pt)であった。
中3	市平均と比較して、国語-2.6pt、数学-6.5ptであった。家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の項目では、肯定的な回答59%(市平均-6.3pt.)、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の項目では、肯定的な回答87.1%(市平均-3.1pt)であった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	全国学力・学習状況調査において、英語は目標値を上回ったため、さいたま市学習状況調査において平均正答率を+1ptとする。数学では目標値に届かなかったため、さいたま市学習状況調査において平均正答率に届くことを目指す。	⇒ 国語、数学ともに、基本的な語句の理解をするよう指導する。数学では、基本的な計算の指導を重視する。引き続き「ドリルパーク」「スタディサプリ」を活用する。
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査において、国語、数学ともに目標を上回ったため、さいたま市学習状況調査において平均正答率を+1ptとする。	⇒ 「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を各教科で実施する。自分の考えを伝える機会を増やし、分かりやすく表現する工夫や、表・グラフ等を用いて説明する場面を授業内に設定していく。
主体的に学習に取り組む態度	「1・2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の項目において肯定的な回答は全国平均を上回り79%であった。しかし「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の項目において、肯定的な回答が49%と、目標値を下回った。当初の目標である家庭学習習慣の定着が目標であるため、個別最適化の学習に取り組ませるとともに、生徒が「スタディサプリ」「ドリルパーク」を活用する習慣を身に付けさせる。	⇒ 教科担当への働きかけとしてICT支援員からアドバイスをいただいた「ちょこ話」をテーマに、まずは授業内で「ドリルパーク」を授業前後の短時間でも活用する。さらに「スタディサプリ」での配信回数を増やしていく。学期に1回の家庭学習強化週間は保護者にも周知した上で継続実施し、学習の状況を生徒、保護者、教員が把握・管理できるようにする。